

第 29 回高知がん診療連携協議会議事要旨

1. 日 時 令和 8 年 2 月 16 日 (月) 18 : 00 ~ 18 : 55
2. 場 所 高知県庁本庁舎 2 階 第二応接室
3. 出席者 別紙のとおり
4. 議事概要

議事に先立ち、会長が開会のあいさつを行い、その後、副会長が進行を務め、新委員の挨拶が行われた。

議事 (1) 高知がん診療連携協議会の取組について

各拠点病院委員及び高知県から、資料 1-1-1~1-7-2 に基づき、令和 7 年度の実績報告及び令和 8 年度の予定について説明が行われた。

高知県健康政策部の委員から、県の取組状況について報告があった。

第 19 回高知県がんフォーラムが 2 月 8 日に放映され (再放送予定 : 3 月 20 日 (金・祝))、 「がんになっても誰一人取り残さない社会を目指して パート 3」 をテーマに、がん検診、予防・禁煙、内視鏡検査、がんサロンおよび相談支援センターの 4 つのテーマを取り上げたことが紹介された。

また、10 月には、がんに関する情報を一元化したポータルサイト「高知がんサポネット」を開設し、県民が必要な情報へ円滑にアクセスできるよう環境整備を行ったことが報告された。

例年実施している「がん検診受診率向上キャンペーン」については、これまでメディアを活用した広報を中心に実施してきたが、来年度は新たにデジタルサイネージを活用した広報も検討しており、幅広い層を対象とした普及啓発に取り組む予定である。

さらに、昨年度後半から養成が開始されたがんピア・サポーター実地研修について、来年度はサポーターを対象としたフォローアップ研修の実施を予定している旨の報告があった。

副会長から高知大学医学部附属病院の取組について、9 月 20 日に南海トラフを見据えた災害とがんに対する情報提供をテーマとした市民公開講座を開催したことが報告された。また、県民向け災害時パンフレットの作成も進められていること、若年層へのがん教育も継続し、骨転移ボード、キャンサーボードを開催し、症例検討を行っている状況も報告された。

高知医療センターの委員から、一般公開講座及び特別公開講座の実施、緩和ケア研修会開催予定、多職種によるがんセンター臨床実習及び定例キャンサーボードの運用について説明があった。

幡多けんみん病院の委員から、9 月 20 日にがん診療に携わる医師等の緩和ケア研修会を実施したことが報告された。がんの学び舎を 4 回、がんの訪問事業を 21 校で実施し、キャンサーボードは月 1 回の予定で、今年度は 46 症例が検討された。来年度はカンファレンス、緩和ケア勉強会を 3 回、がんサロン「ふたば」を 8 回、幡多がん患者会「よつばの会」を 4 回予定しているとの報告があった。

高知赤十字病院の委員から、地域公開講座、がん医療訪問カンファレンス (地域の医師会と共催で各地域に出向き医師会の生涯教育学習制度として毎年実施) 、地域住民向けミニ講座の開催、地域連携パス運用、院内緩和ケア研修及びがん薬物療法看護セミナーの継続実施について報告があった。

国立高知病院の委員から、地域医療機関との病診連携フォーラムを年2回開催しているほか、地域連携クリニカルパスについては、肺がん、乳がん、大腸がん、胃がん、子宮体がんおよび膀胱がんの6種類を運用していることが報告された。さらに、来年度には前立腺がんの導入を予定していることが示された。また、大腸がんおよび肺がんをテーマとした市民公開講座を11月15日に開催したこと、相談支援の取組として、がんサロンの開催および地域連携室における随時相談対応を実施していることが報告された。

あき総合病院の委員から、PEACE研修を高知大学医学部附属病院と共同開催で11月16日に実施したことが報告された。がんサロンを4回、キャンサーボードを4回実施した。来年度はがんゲノム医療についての講演会を地域の開業医向けに実施予定であると報告があった。

議事（2）高知県がん対策推進計画について

高知県健康政策部の委員から、資料2に基づき、年齢調整死亡率、HPVワクチン接種率、がん検診受診率等の指標の動向および課題について説明があった。

男性の死亡率は減少傾向にあるものの全国平均よりやや高く、女性については微増傾向にあることが報告された。また、HPVワクチン接種率はキャッチアップ接種の効果により全国平均を上回っている一方、今後の反動減が懸念されることが示された。がん検診受診率については、肺がん検診のみが目標を達成し、子宮頸がん検診は初めて50%を超えたことが報告された。精密検査受診率は、市町村実施の検診では概ね80~90%台で推移しているが、職域において低迷しており、全体の受診率を押し下げている状況が示された。今後は、職域向け啓発資材の配布や、精密検査実施医療機関の拡充を進めていく方針が示された。

さらに、2040年を見据えた医療提供体制の集約化について、県と高知大学（都道府県がん診療連携拠点病院）との継続的な議論の必要性、およびがん相談支援センターの周知強化の重要性が示された。

議事（3）高知がん診療連携協議会がん登録部会の報告について

部会長から、資料3に基づき、10月24日に、部会を開催し、研修会の企画運営を各施設で分担して進めることが承認されたことが報告された。2月28日に、がん登録研修会を高知医療センターと高知赤十字病院が主体となって開催予定である。院内がん登録に関しては、2022年から2024年のデータを集計し、製本を廃止してPDF公開へ変更することが報告され、公開前の査読の協力依頼が行われた。

議事（4）高知がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会の報告について

副部会長から、資料4に基づき、今年度は6月および12月の計2回、がん専門相談員研修を実施したことが報告された。

また、がんサロンについては、再開する施設は増加しているものの、参加者不足や感染症の影響により運営が困難な状況が続いており、今後は患者会主体による運営形態についても検討していく旨の説明があった。

さらに、9月（がん制圧月間）および10月（高知県がんと向きあう月間）に合わせ、オーテピア高知図書館において出張がん相談を実施したほか、10月4日および5日にはりレーフォーライフにおいて出張がん相談ブースを出展したことが報告された。がん相談件数は、2023年度が4,464件、2024年度が4,131件であった。患者満足度調査では、相談支援センターの認知度が35.6%から52.6%へ上昇したものの、全国平均を下回る状況にあるため、高知県広報誌「さんさん高知」を活用し、県民向けの周知を行った。なお、PDCAサイクルチェックリストについては、全国版の導入にあたり県独自項目を追加し、今後運用する予定であるとの報告があった。

議事（５）高知がん診療連携協議会緩和ケア部会の報告について

部会長から、資料５に基づき、「がんサポートブック」（高知県作成）において、在宅緩和ケア特集を継続して掲載する予定である旨の報告があった。

また、「多職種で考える地域連携緩和ケア研修会」については、シンポジウム形式により症例検討およびグループワークを実施し、年２回開催する予定であるとの説明があった。

緩和ケアチーム専門委員会の活動としては、新たに近森病院およびもみのき病院において緩和ケアチームの活動が開始されることに伴い、当該施設への支援を行うとともに、研修会を開催する予定であることが報告された。

さらに、緩和ケア病棟専門委員会では、県内６施設による相互訪問を実施し、各施設の特徴や取組について情報共有を図る予定であることが報告された。あわせて、PEACE研修の実施予定についても説明があった。

議事（６）高知がん診療連携協議会がん生殖医療部会について

部会員から、資料６に基づき、妊孕性温存の実施件数について、令和７年度上半期は過去最多となり、県内においてもがん生殖医療の分野が徐々に広がってきているとの認識が示された。

また、部会内においては、助成制度およびガイドライン改訂内容の共有に加え、県による助成金補助交付要綱の改訂についても情報共有を行っていることが報告された。

さらに、AYA世代支援体制の推進に向け、AYAチームの構成および活動内容について検討を進めている旨の報告があった。

議事（７）高知がん診療連携協議会がん薬物療法部会の報告について

部会長である副会長から、資料７に基づき、災害時患者向けパンフレット作成及び５,０００部印刷予定について報告があった。

議事（８）高知がん診療連携協議会放射線治療部会の報告について

部会長から、資料８に基づき、転移性脊髄圧迫に対する緊急処置の輪番制について、高知大学、高知医療センターおよび高知赤十字病院の３病院において本年４月から開始したことが報告された。周知の進展に伴い、平日における緊急対応件数が増加していること、病院訪問を実施し、体制および連絡窓口の周知を継続していることが説明された。

さらに、講演会の実施状況について報告があるとともに、放射線治療機器の更新に課題を抱える施設があることから、関係機関間で情報共有を行った。来年度は、輪番制の認知が十分でない地域において講演会を実施し、さらなる周知を図りたい旨の報告があった。

議事（９）小児がんの拠点協力病院及び小児がん医療提供体制協議会の活動報告について

委員から、資料９に基づき、ネットワーク会議を年９回開催していること、またセミナー・研修会についても例年どおり実施していることが報告された。あわせて、小児がんサバイバーに対する長期フォローアップをはじめ、妊孕性支援や就学・就労支援を継続して実施している旨の説明があった。

子どもの出生数の減少に伴い、小児がんの発症数も年々減少しているものの、小児領域に限らずAYA世代と一体的に取り組む必要があることから、大学においてCAYA世代患者支援チームの設置に向けた準備を進めているとの報告があった。

今後の活動および課題としては、岡山大学と連携した小児がんゲノム定例会の開催や、終末期診療への取組を進めていくことが述べられた。

その他

・手術療法部会の新設について

副会長より、資料 10 に基づき、高知がん診療連携協議会に新たに手術療法部会を設置する提案がなされた。本部会は、がん診療の集約化を念頭に、消化器がん領域における外科医不足の状況も踏まえ、高知県における手術療法の集約化について検討することを目的とするものであり、来年度から活動を開始する予定であるとの説明があり、高知県がん対策推進協議会への議題提案が承認された。

・市民公開講座の共同開催の提案について

委員から、市民公開講座の共同開催について提案があった。各施設で実施している公開講座の効率化を図るため、共同開催の検討が提案された。

・高知県がんポータルサイトへのがん治療実績等の掲載について

高知県健康政策部健康対策課から、高知県がんポータルサイトへのがん治療実績掲載について、テストサイトを用いた説明が行われた。掲載にあたっては、医療機関のランキング化とならないよう配慮し、各施設の特性やデータの読み方に関する注意事項を示すとともに、年間患者数、手術、放射線治療、薬物療法および緩和ケアの 5 項目を掲載する予定であることが説明された。テストサイト確認後、本番環境において公開を進めることが決定された。